

総務財政委員会行政調査報告書

総務財政委員会委員長 吉田 健吾

1. 日程

令和7年8月1日（金）

2. 調査事項

（1）大阪市

大阪ヘルスケアパビリオンについて（大阪・関西万博）

（2）神戸市

神戸市催事について（大阪・関西万博）

3. 委員長所見

電車を利用し東ゲートから入場をしたが、電車内には高齢者から子どもまで多世代のグループや、様々な国・地域の外国人のグループの姿が見え、来場者の幅が非常に広いことが見てとれた。また、夢洲駅の構内は黒を基調とした内装と超大型ディスプレイの設置など、特徴的な印象であった。

大阪ヘルスケアパビリオンリボーン体験では、非常に高画質カメラとAIセンサーで健康診断が実施されたが、カメラやセンサーで確認できる部分の診断については、AIが診断する時代も近いと感じた。各ブースは協力している企業のノウハウで、参加することで健康や医療に対して興味をもつきっかけになると感じた。また、展示ブースでは実際の心筋シートの見学もできて、医療業界の研究の必要性や成果を感じることもできた。

ギャラリーEASTにおいて期間限定で開催されている神戸市の催事については、同じ会場を使用して開催された他の催事よりも来場者が多いようで、神戸市という街への期待が来場者にはあるのではなかと推察する。試食や試飲が物によっては早く終了していて、需要予測は難しいと思うが、来場者の中には残念な思いをしてしまった人がいるのではないかと思う。神戸市の良い所が詰め込まれた空間になっており、“続きは神戸で”という狙い通り、神戸市へ人を誘引するきっかけの提供が存分にされていると感じた。

大阪・関西万博ということではあるものの、その効果を大阪のみならず関西にどうしみ出させるかがポイントであると思っていたが、しみ出しを待つのではなく、今回の神戸

市催事のように誘引する取り組みが重要であると感じた。限られた期間ではあるが、アフター万博や神戸空港活性化なども勘案して、今からでも出来る対応が求められると感じた。

(大阪ヘルスケアパビリオン)



(神戸市催事)

